

## 平成27年度 全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成27年4月21日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語、算数、理科)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。  
 この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。  
 学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。  
 なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

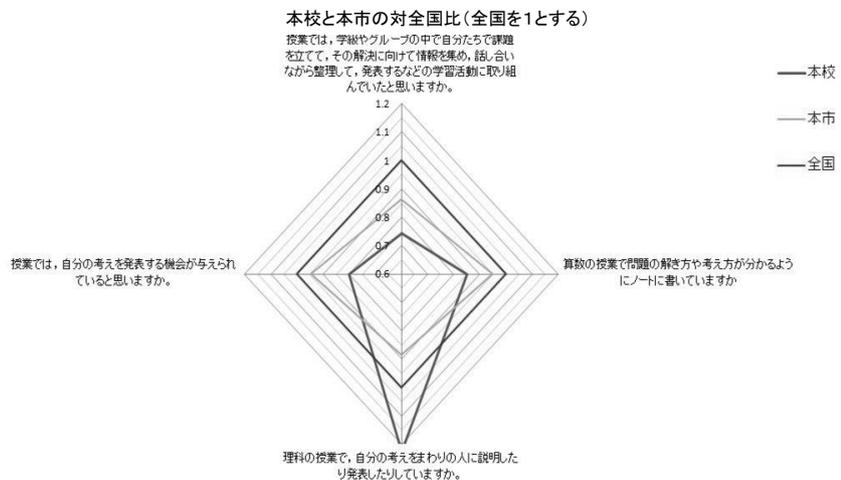
### 1. 教科に関する調査結果の概要

#### ① 学力調査結果と分析

カテゴリー	全国平均との比較	学力調査の分析(傾向や特徴)
国語A	下回っている	<ul style="list-style-type: none"> <li>全体的には全国平均正答率を下回っているが、読むことに関しては全国平均との差が小さい。</li> <li>言語についての知識・理解・技能に課題があり、継続的に取組を強化していく必要がある。</li> </ul>
国語B	下回っている	<ul style="list-style-type: none"> <li>全体的には全国平均正答率を下回っているが、昨年度より正答率が高かった。</li> <li>目的に応じて文章を読み取ったり、自分の考えを書いたりすることに課題がある。</li> </ul>
数学A	下回っている	<ul style="list-style-type: none"> <li>全体的には全国平均正答率をやや下回っているが、昨年度より正答率がやや高くなり、全国平均との差も少なくなった。</li> <li>量と測定や図形についての知識理解や技能に課題があり、角の測定や図形の定義、作図の方法を正しく身に付ける必要がある。</li> </ul>
数学B	下回っている	<ul style="list-style-type: none"> <li>全体的には全国平均正答率を下回っているが、昨年度より全国平均との差が少なくなった。また、無解答率も昨年度より低くなった。</li> <li>図形に関する問題について、解答の根拠や求め方を記述することに課題がある。</li> </ul>

#### ② 学校における学習状況に関する調査結果と分析

・学習課題について情報を収集してまとめたり、問題について解き方や考え方をまとめたりしていると答えた児童の割合は、全国平均を下回っている。今後は、授業の中で情報や考えをまとめて書く活動や授業の終わりにふり返りを書く活動をより多くしていくことが必要である。  
 ・学習課題に対する自分の考えを発表したり、説明したりすると答えた児童の割合は、全国平均を上回り、授業の中での発表の場を工夫する取組の成果が出てきている。しかし、発表する機会が与えられていると答えた児童の割合は、全国平均を下回っており、今後は各教科の授業の中で、展開を工夫して発表回数を増やしていくことが必要である。



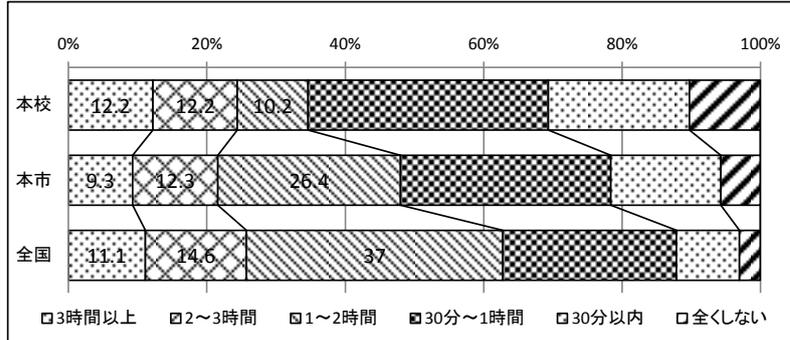
## 2. 家庭生活習慣等に関する調査結果の概要

### ① 家庭学習習慣に関する調査結果と分析

学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間も含まれません。)

・平日・休日とも、1時間以上家庭で学習している児童の割合は、全国平均より低いが、休日の学習時間が前年度より14.8ポイント高くなり、家庭学習の改善の兆しが見られる。今後は、家庭学習の時間の目安を再度示し、課題の出し方を工夫しながら家庭との連携をより深め、計画の立て方や学習の仕方を指導していく必要がある。

・休日の読書のために図書館を利用している割合は全国平均より高く、これまでの読書指導の成果が現れている。今後も、学校の図書館の活用を中心にしたよりよい読書習慣の定着を図っていくことが必要である。



### ② 生活習慣等に関する調査結果と分析

・地域や社会で起こっていることへの関心は高いが、地域の行事へ参加している児童は少ない。校区の市民センターや育成会、自治会等では、たくさん行事を企画し実行しているため、児童への呼びかけを工夫し、地域の行事の参加を高めていく必要がある。

・友達の前で自分の考えや意見を発表することが得意と答えている児童の割合は全国平均より高く、授業や帰りの会、学校行事の中で発表を位置付けている成果が出てきている。

・就寝時刻が定まらず、生活リズムに課題がある。平日・休日ともテレビやゲーム、スマートフォン、インターネット等を利用している時間が昨年度より長くなっていることも原因と考えられる。学校・学年・学級通信等で家庭への啓発を進め、連携して児童の生活リズムを整えていくことが必要である。

## 3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

### ① 教科に関する取組

- 学力向上のための特設時間の実施
  - ・1学期の学習状況や学力・学習状況調査の分析をもとに、学力向上に向けての本校の取組の方向性や内容の共通理解を図る。
  - ・児童の苦手な領域の過去問題や活用問題を解く時間を設定する。
  - ・朝学習の時間に、「読む力」の育成のために、週に2回(月・木)「読書タイム」を設定する。また、基礎・基本の力を育成するために、週に2回を「算数チャレンジタイム」として設定し、全校で一斉に実施する。担任外の教師が曜日を決めてそれぞれの学級を支援する。
  - ・定着を図るためのドリル学習を重視する。教材は、漢字・計算ドリルを基本として使用するが、アシストシート(学習済み単元分)等も積極的に活用し、基礎的な内容の定着を図る。さらに、6年生は1・2月に、5年生は2・3月にまとめの学習活動を設定・実施し、問題の解き方等の指導を行う。
- 過去問題、アシストシート、活用力を高めるワークの活用
  - ・過去問題やWEB問題、活用力を高めるワークの問題を、単元末に「力試し」として活用したり、単元学習後に理解の度合いを測るものとして活用したりする。
  - ・アシストシートや過去問題等を冊子にして、冬休み・春休みの「宿題帳」とする。
- 「読む」「書く」ことを習慣化
  - ・学習のめあて、まとめをすばやく書けるようにする。(「1分以内」など、時間を決める。)
  - ・国語では、文章の内容を読み深めることができるよう実態に応じた個への支援を行うとともに、読み取ったこと、感じたことを伝え合い、発表し合う活動を学習に位置付ける。
  - ・算数では、自力解決の場面で、式や答えだけでなく自分の考えを書く活動を位置づける。また、図や言葉で書かせて説明させる。集団解決の場面では、国語等の話し合いの仕方を生かして考えを出し合い、練り合う活動を行う。
  - ・後から見直しても学習内容が想起できるノートの取り方やまとめ方ができるようにするとともに、学習の最後、3分間を「振り返りタイム」として、分かったことや感想等の振り返りを書くことで1時間の学習の成果を自覚できるようにする。また、単元の学習の途中で随時ノートの点検を行い、一人一人のがんばりを朱書等で評価する。
  - ・連絡帳に3行程度の「ミニ日記」を書き、書くことの習慣化を図る。

### ② 家庭生活習慣等に関する取組

- 全国学力・学習状況調査の課題と取組等を保護者へ周知
  - ・学校だよりや学校のホームページで保護者に学校での学力向上の取組を伝えていくと同時に、学校だよりや学年・学級通信で学習習慣や生活習慣の改善にかかわる啓発を今後も継続して行う。
  - ・学級・学年懇談会で児童の課題と学力向上の取組状況を説明し、理解と協力を得るようにする。個人懇談会では、保護者と話し合って個別の課題を明確にするとともに学習習慣の育成等を家庭と連携して行えるようにする。
- 宿題のスタンダード化(時間・学習別・教科別内容)
  - ・自主学習ノートを活用し、自分の課題に応じた学習が計画的にできるよう指導するとともに、優れた取り組みを紹介し、児童が見通しを持って取り組めるようにする。
  - ・1・2年30分、3・4年45分、5・6年60分をめやすに家庭学習時間の設定し、学校だよりや学年・学級通信で保護者への理解を図る。
  - ・「家庭学習の約束」を確認し、家庭学習の大切さを意識させる。そして、「家庭学習チャレンジハンドブック」を宿題等で活用するように呼びかけるとともに、毎月担任がチェックをし、有効な活用を図る。